地域に根ざす踊りの創作と普及
―福島県東村の場合―

鈴木裕美子

福島県西白河郡東村では、明治時代に始まった釜子納涼盆踊りが毎年８月14日～16日の３日間開催され、２種類の踊りが伝わっている。初めはゆっくりしたリズムの踊りで、最後に独特の速いリズムで踊られるはねっこ踊りに変わる。

踊りの継承者が少なくなっている現在、正調の踊りの保存と、世代間交流や地域おこし、健康づくりや文化の創造を目的に、年齢や目的に応じた新しい踊りの創作が望まれる。

１）目的

本研究は、地域に根ざす踊りの創作と普及を目的とし、いつでもどこでも誰でも楽しめる踊りを追究した。北海道のソーラン節、山形の花笠踊り、岐阜の郡上盆踊り、徳島の阿波踊り、沖縄のエイサーなど、地域をあげて取り組んでいる祭りや踊りも参考にして、現在の人々の興味や目的、行事に即した在り方を追究し、舞踊の日常化を図りたい。

２）方法

１．期間　平成10年５月～11月

２．内容

(1)　東村の取材

(2)　踊りの創作と普及

３）結果と考察

１．伝統的な盆踊りと現代の踊り

(1)　YOSAKOI ソーラン祭り（札幌市）

踊る曲のどこかにソーラン節が入っていること・鳴子を持って踊ることの２つのルールがあり、参加者の自由な発想で踊り子隊を出して優劣を競い合う祭り。今年７回目の新しい祭りで、雪祭りを凌ぐ勢いで加熱してきている。

(2)　わらじ祭り（福島市）

伝統的な大わらじの奉納と、特産の桃と、県費留学生を受け入れるなど福島県と交流の深いブラジルのリズム、サンバの３つのイメージで繰り広げられる祭り。今年29回目。初日のわらじおどりと、２日目の参加団体の創意工夫によるダンスのパレードであるビーチサンバは、コンテストが行われ審査される。

(3)　郡上踊り（郡上八幡）

馬の産地として名高い郡上に伝わる盆踊り。「かわさき」「三百」「春駒」「ヤッチク」「ねこの子」「騒ぎ」「甚句」「ゲンゲンバラバラ」「まつかさ」の９つのそれぞれ違った特色のある曲が展開され、開催期間は１ヶ月間に及ぶ。

(4)　網代港音頭

松葉蟹（ズワイガニ）の漁獲量の高い鳥取県岩美郡の網代では、地域を活気づけるために、地元の人々が協力して作詞・作曲・振り付けを行った。踊りはいたるところに波をイメージし、最後の囃しは、網代地区に伝わる盆踊りを、曲は変えてあるが、詞と踊りをそのまま採用した。

(5)　エイサー（沖縄）

沖縄本島および周辺の盆踊りで、盆明けに「沖縄全島エイサーまつり」や「青年ふるさとエイサーまつり」が催されることもあって、村々の青年団が競って工夫し、楽隊や踊りなどに新しい要素を加える。

２．東村の地域性

東村は福島県の南部、白河市の東方に位置し、アルカリ性単純温泉のきつねうち温泉を核とした人口６千余人の農村地帯である。五合のご飯を一度に食べる行事「五合飯」や、「下野出島太々神楽」など数多くの祭事が伝わるが、各地区で行われていた盆踊りは時代の変遷とともに見られなくなり、現在では釜子地区だけのようである。

きつねうち温泉は地名に由来し昔は多くの狐が棲息していた。狐は人々にとって身近な動物であった。ひょうきん、ずるい、ばかす、神秘的なイメージがあり、稲荷神の使いでもある。伏見稲荷大社を総本社として竹駒（宮城県）、笠間（茨城県）、豊川（愛知県）はじめ全国各地の稲荷神社は五穀豊穣、商売繁盛の御利益があるとされ、人々の信仰を集めている。また、狐火伝説や狐の嫁入り行列、狐の面などの資料を展示した狐の嫁入り屋敷（新潟県）のようなユニークな資料館もある。

自然に恵まれた東村の地域性は、農業、くだもの、つつじ、あかまつ、うぐいす、白鳥、きつね、温泉、観光、をキーワードにして特徴づけることができる。

３．踊りの創作

(1)正調（はねっこ踊り）を生かす

(2)きつね	近づく－うかれる－逃げる
(3)温泉	かける－洗う－つかる
(4)農作業	田植え－成長－稲刈り－奉納
(5)健康づくり	手－足－手・足、首、肩、腰
(6)小道具を使う	うちわ、手拭い

４）まとめ

踊りの普及には二面性－守り継ぐ伝統と、型の内に存在する創造と型を創る創造があり、祭事、行事、芸能、芸術、教育、娯楽、健康づくりなどさまざまな目的で踊られる。今回、伝統的な踊りである「釜子盆踊り」が伝わる福島県東村の高齢者の健康づくりを支援する対策として「健康踊り」の創作に取り組んだが、年齢・性・興味・関心・障害などを超えて踊りが普及し、地域の活性化につながっていくことを願ってやまない。